



段差のない社会へ 荒川やさしい街づくりの会

「伝えなければ、気がつかない」

荒川やさしい街づくりの会は、平成3年に発足し会員33名、賛助会員13名です。

障がいを持つ方達が、福祉教育への協力・バリアフリー啓発・パソコン教室開催等を通じて、車イスの方達を身近に感じ理解してもらう為の情報を発信しています。

「体験して理解」

荒川区内の各小中学校で、車イス学習会を行っています。実際に車イスに乗ったり、介助したり体験して理解してもらっています。この車イス学習から福祉の仕事についた人もいます。

「1cmの差は大きい」

健常者には、cmの違いは気にならないかもしれませんが、障がいのある方にとっては大きな問題です。視覚障がいのある方には、歩道と車道を区別するのに2cmの段差は必要な段差です。しかし、電動車イスは歩道で段差が5cm以上、手動車イスでは段差が2cm以上あると乗り上げの移動はとても難しいのです。会では、車イスで外に出てトイレの場所の確認・道路の段差の確認等の調査を行い、行政

など各機関も報告し、改善を求めています。千代田線の町屋駅のインターホンは高さ130cmの位置にあり、車イスに乗って押すことはできませんでしたが、40cm下げて手が使えなくても頭でボタンを押せる位置にしてもらいました。また、日暮里駅周辺地区交通バリアフリー推進協議会にも参加し、駅周辺の各ビルには車イス対応トイレがやエレベーターの設置などが実現致しました。

「トイレが心配」

昨年、「特定非営利活動法人あふネット」と協力して障がいのある人・高齢者にも使いやすいやさしい都電沿線のトイレのガイドマップを作りました。使用できる時間や場所、設備の内容を3年かけて会員達が、車イスで地道に廻って調査したものです。車イスの方にとって外出時に車イスで利用できるトイレの有無は大切な問題です。

かつては、外出先でトイレがないことを見越して前日から水分摂取を控える人がいる程、トイレの問題は、深刻な問題でした。車イス対応型のトイレがある公共施設は、年末年始は休みで使用できない為に、外出を控える方もいます。近年、対応型のトイレは増えては来ましたが絶対数は足りず、問題点は残っています。対応型のトイレでも便座の高さにばらつきはあります。健常者には、便座の高さが2〜3cm違っていても感じないでしょうが、車イスの方はある程度の高さがないと、立ち上がれなくなっ

てしまいます。また「誰でもトイレ」と名が付いている為、車イス以外の人が使用して使えないこともあります。

車イスの人しか使えないトイレを譲ってくれる優しさが、足りなくなってきたら困ってしまいます。このような体験者でないとはわからない実情を理解してもらうために会では発信しています。



「入会して、抜ける人いないんですよ」

笑顔で話される代表の後藤俊子さん、高橋庸太さん、高梨さんは生き生きとして楽しそうです。人に優しくなれる笑顔の会です。意思伝達や情報収集発信の手段として毎週木曜日には、パソコン講習会を開いています。

手作りの名刺はすばらしく、いただいた季刊紙「〜ビルド〜」は、なかなかのできばえでした。パソコン教室以外にも4月から10月まで「れくれ」という外出活動をしています。まずは、パソコン教室に参加してみませんか。心の壁がとれ笑顔になれて、新しい一歩が踏み出せますよ。

荒川やさしい街づくりの会
 活動日時 毎週木曜日AM10〜PM3時
 活動場所 アクロスあらかわ
 会費 年額3,600円 入会金 なし
 賛助会員一口1500円
 問合せ先 3894-5366 後藤